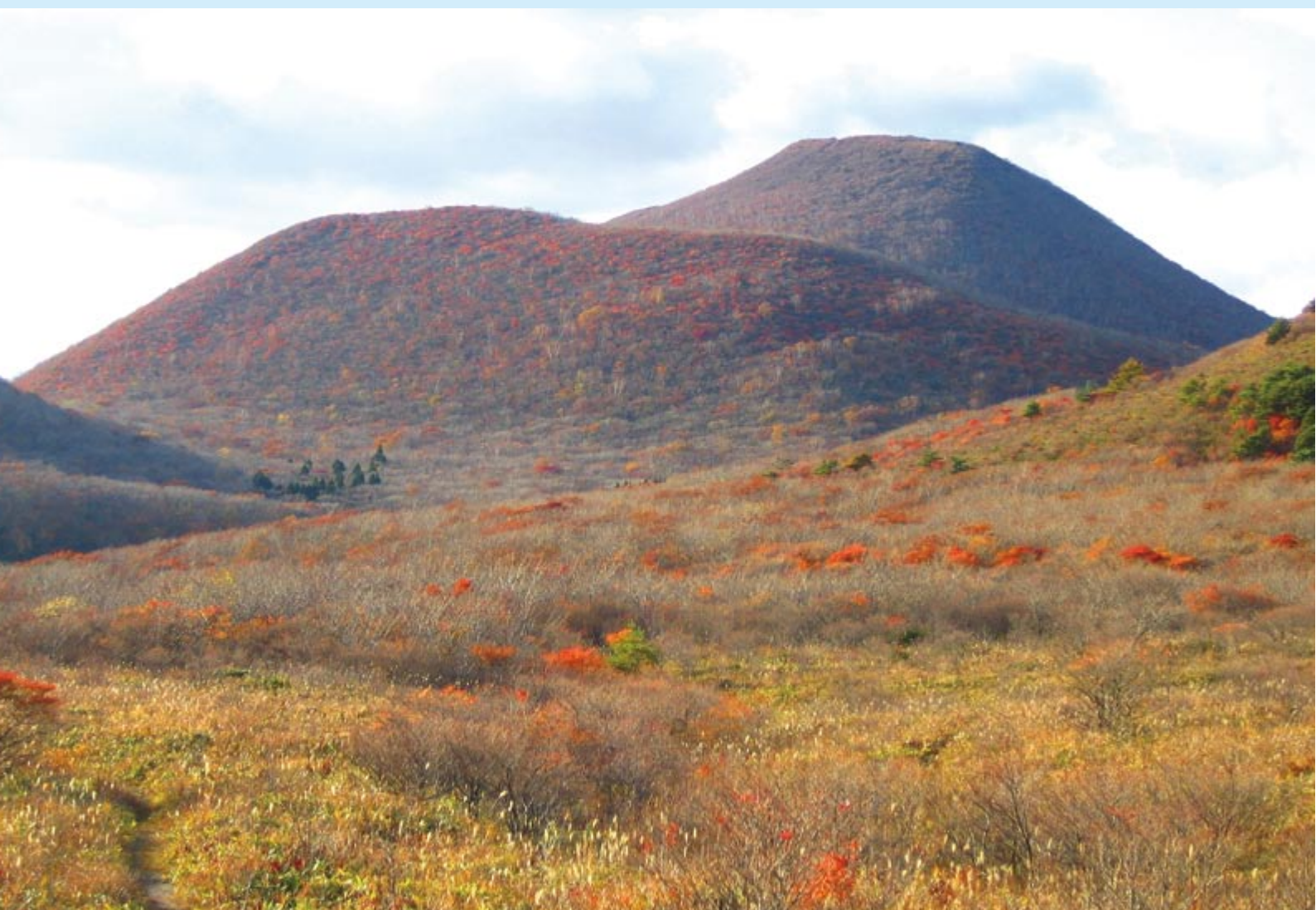


北の森林 も 林 国有林



北海道森林管理局



晩秋の海向山（函館市恵山町・569.4m）



国民の森林・国有林

地球を守る木 みんなの財産国有林

国有林野の管理・経営に国民のみなさんの声を

平成20年度国有林モニター現地視察会及び会議開催



国有林モニター九名が参加

十月二日（木）から三日（金）の二日間にわたり、平成二十年度の「国有林モニター」のみなさんに国有林の現場を見ていただく視察会及び会議を開催しました。

「国有林モニター」とは、国有林野の管理・経営に国民のみなさんの声を反映させることを目的とし、平成十六年度から始まった制度です。

今年度は、モニターの任期が半分終了した時期に、モニターのみなさんの希望をもとに、定山溪周辺の国有林視察と会議を企画し、当日は道内の十九名のモニターのうち九名が参加しました。

札幌市の水源の森 定山溪国有林の視察と植樹体験

一日目は、札幌市の定山溪周辺の国有林を管轄している石狩森林管理署の杉村流域管理調整官による視察所の説明を受けながら、初秋の豊平峡ダム等を視察したほか、現地に於いて、誰でも簡単に植樹ができる再生紙段ボールの育苗ポット・カミネッコンを使った植樹を実際に体験していただきました。

モニターのみなさんは、普段見ることのできない国有林の現場に興味深げな様子で、また実際に植樹を体験したことで「水源の森」や森林づくりへの理解をより深めてもらえたと思います。

貴重なご意見をいただいた モニター会議

二日目は宿泊施設の会議室において、モニター会議を行いました。

会議では山田北海道森林管理局長も出席する中、モニターのみなさんからは、各種イベントや森林環境教育の取組みに対する要望のほか、国有林野事業に対する応援的な意見もいただき、大変有意義な場となりました。

今回の企画は、私たち職員にとっても、モニターのみなさんの生の声を聞くことができる貴重な機会となり、多くのことを学ばせていただきました。

今後、このような視察会などを企画し、国民のみなさんに森林づくりへの理解を深めてもらうとともに、貴重なご意見を今後の森林づくりに活かしていきたいと考えています。

（業務調整課）



①カミネッコンで植樹体験 ②稚樹を前に天然更新の説明 ③活発な意見交換を行ったモニター会議 ④定山溪国有林を水源とする豊平峡ダムで記念撮影 ⑤中山峠の「水源の碑」の前で定山溪国有林の概要説明 ⑥水源の森にみなさんに植えていただいた苗木

壊れにくい低コストの道づくりを普及 表土ブロック積み工法現地検討会



北海道森林管理局
函館事務所

恒久的な低コスト作業路で
効率的な森林整備を

日本の森林は、地球温暖化防止対策として大きな役割を課せられており、今年度から間伐等促進法が施行され集中的に間伐等の実施が必要となっています。

このため、恒久的な低コスト作業路を使用し、高性能林業機械等による効率的な作業システムを構築し、間伐を将来にわたって低コストで効率に行っていくことや林地保全に配慮した作業路作設が重要となっています。

普及・啓発目指し
現地検討会開催

このような中、九月二十六日(金)に民有林・国有林の林業関係者を対象とした平成二十

年度低コスト作業路作設「表土ブロック積み工法」現地検討会をせたな町において渡島檜山流域森林・林業活性化センターと当事務所の主催で開催し、百四十名が参加しました。

これは低コスト作業路の作設において、表土ブロック積み工法の必要性と、実演・実技指導を通じ、低コストで壊れにくい道づくりを広く普及・啓発することを目的としたものです。

群馬森林管理署長が

四万十式作業路を解説

午前中は、せたな町のせたな町民ふれあいプラザを会場に中岡群馬森林管理署長による講演「驚きの強さ四万十式森林作業路を学ぼう」が行われました。

講演では、表土ブロック積み工法は森林土木技術のイノベーションと位置づけ、設計方法や使用機械、作業システム、また、低コスト恒久的作業路網の普及



中岡群馬森林管理署長による講演

とそれに対する国有林の役割等について、九十分にとって解説しました。

西置賜ふるさと森林組合

渡部氏による作業実演



西置賜ふるさと森林組合の渡部氏による表土ブロック積み工法の作業実演

午後からは町内の若松国有林に会場を移し、山形県で低コスト作業路作設のオペレーター養成に活躍されている、西置賜ふるさと森林組合の渡部氏を講師にブロック積み方法や土砂の移動方法等についての指導と実演をしていただきました。

参加者は、メモやビデオを撮り、質疑では予定時間を過ぎるほど熱心なやりとりがあり、本工法の普及・啓発に向けた大変有意義な検討会となりました。(本谷 上席技術指導官)

森林づくり関係機関
技術交流と意見交換で連携強化

民有林・国有林が
技術交流
後志森林管理署

北海道後志森づくりセンター（＝民有林）と当森林管理署（＝国有林）の技術交流会を十月十四日（火）



羊蹄山北斜面で進められる民有林直轄治山事業施行地の視察

に、計三十名の担当者の参加で開催しました。

当日は、当署が昭和四十七年から羊蹄山の北斜面で進め本年度で事業を完了する民有林直轄治山事業の施工地と、北海道電力（株）が平成二十七年の運転開始を目指して建設中で、完

成後は出力六十万KWの純揚水発電所となる京極発電所を視察しました。

普段の業務で関わっているものとは違う現場を見ることができ、参加者は工事担当者の説明などを熱心にメモを取り、活発な質疑応答がされた大変有意義な交流会となりました。

（糸瀬 流域管理調整官）

人工林施業方針を
紹介
上川南部森林管理署

十月十六日（木）、南富良野町幾寅の国有林において、上川南部流域森林・林業活性化センターの構成団体を対象とした「国有林における人工林施業方針の紹介」を行いました。

当署管内では高齢級の人工林が増加する傾向にあることから、会場については今後これらを長伐期の人工林として取り扱うか又は侵入した有用な広葉樹を活用し針広混交林へ誘導する施

業をとるなどの方法がよいかについて意見交換のできる個所を選定しました。

当日は十六の構成団体から五十七名の参加者があり、実際に森林の中に入り現地での意見交換を行いました。

参加した

東京大学附属北海道演習林や上川南部森づくりセンター、自治体の担当者から貴重なアドバイスや質問が出され、今後、多様な森林整備を図っていく上で施業情報などの共有が図られ大変有意義な場となりました。



人工林の施業方針について熱心な意見交換



（佐藤 流域管理調整官）

国有林が広がる奥尻島・利尻島・礼文島

北の島だより

離島の森林事務所に勤務し、島民のみなさんとともに森林を守り育てる森林官・主任たちから届いた話題を紹介しします。



船泊漁業協同組合 女性部

10月23日、船泊村大沢で「お魚を殖やす植樹活動」を行いました。

普段はとても風が強い場所ですが、当日は雲一つ無い穏やかな天候に恵まれ、参加者のみなさんは漁獲量の話などで盛り上がりながら和気あいあいとダケカンバとナナカマド計150本を植えました。

森が育っていく姿を楽しみに、今後も頑張っていく予定です。

10月23日、船泊村大沢で「お魚を殖やす植樹活動」を行いました。

普段はとても風が強い場所ですが、

活動10周年記念



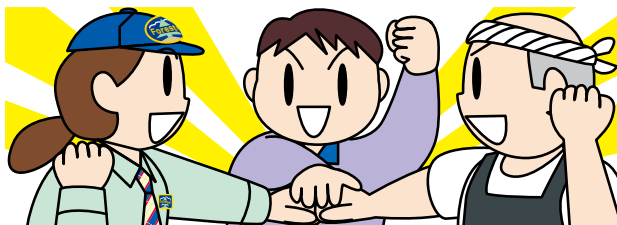
礼文島自然クラブ

9月27日、香深村香深井の香深井ふれあいの森「やませの森」で秋の植樹活動を行いました。

活動開始から10年の節目の植樹も元気に楽しく作業を行いました。

9月27日、香深村香深井の香深井ふれあいの森「やませの森」で秋の植樹活動を行いました。

苗木は恒例



礼文島発

島の水源を育てて、豊かな海を守る

四方を海に囲まれた礼文島の水源は、その面積の約八割を占める国有林。この大切な水源の森林を育てることは、川を経てつながる豊かな海を守ることにもつながります。今月は、「森」と「海」のつながりがずっと大事にされている礼文島で、秋の植樹活動を行った三つのグループを紹介しします。みなさんの活動がこれからも続き、大切な森林を未来につなげていくことを願っています。(田島 礼文森林官)



香深漁業協同組合 女性部

10月15日、「漁民の森協定」締結後3年目となる「お魚を殖やす植樹活動」を香深村の「漁民の森」で行いました。

参加者のみなさんは「大きく育て！」と願いを込め、海から吹き付ける強風に負けず、根が土にしっかりと付くように苗の周りをはっきりと踏み締めながら、イタヤカエデやダケカンバなどの広葉樹300本を植えました。

治山最前線 十勝岳の国有林治山事業

泥流災害から人命・財産を守る

山地の保全・災害復旧などの治山事業を現地で担う
各地の治山事業所からのレポートを紹介します



上川中部森林管理署
十勝岳治山事業所



写真①景観に配慮しコンクリート堤体にカラマツを張った硫黄沢導流堤 ②土石流の勢いを弱める治山ダム群
③治山施設群が守る十勝岳山麓の白金温泉街

火山群の麓で

北海道のほぼ中央を南北に貫く十勝岳連峰は、標高二〇七七㍎、国内有数の活火山である十勝岳を主峰とし、美瑛富士、美瑛岳、前十勝岳などの山々がほぼ一列に並ぶ火山群です。

その山腹にはエゾマツ・トドマツなどが生育する亜寒帯の森林を擁し、雄大な山岳美を誇る北海道の屋根、大雪山国立公園の一部を成しています。

噴火を繰り返す十勝岳

十勝岳は、北西側の山頂付近に新旧の噴火口が並び、その斜面は美瑛川と富良野川の谷に刻まれ緩斜面と台地状の地形が発達し、麓の町である美瑛・富良野方面へ続いています。

十勝岳は古い火山体で、新旧の溶岩流などがみられ、直径六〇〇㍎余りのグラウンド火口をはじめとして数カ所の火口を有し、有

史以来五回の噴火記録があり、大正十五年の大噴火では、これに伴う泥流が発生し、死者一四四名という甚大な被害を引き起こしました。

近年では、昭和六十三年から平成元年にかけて噴火しており、これまでの噴火記録などから、およそ三十〜四十年周期で噴火を繰り返すと推測されています。

噴火災害から街を守る

このような噴火からの災害を防ぐために、十勝岳治山事業所では十勝岳を中心として、その周囲の治山事業を進めて、昭和六十三年の噴火以降、平成十九年度末までに一〇九基の治山施設（堰堤・床固・導流堤）を施工しています。

現場では、治山ダム（堰堤・床固等）のほか、「導流堤」という治山施設を施工しています。

この導流堤（写真）は、火山泥流が発生した場合

に、白金温泉街を流れる尻無沢への流入を防ぎ、硫黄沢へ泥流を誘導するために施工したものです。

十勝岳の麓にある白金温泉街は、十勝岳やその周囲の山々への登山口として、毎年多くの観光客や登山者が集まる拠点となっています。みなさんもぜひ一度、山へ足を運んでいただき、山から見下ろす「すばらしい景色」を堪能してみてください。

上川中部森林管理署 十勝岳治山事業所

- 上川郡美瑛町寿町4-3-29
- 電話 / 0166-92-1299

主任 益山 教行





早春の日高山脈



地に爪跡をいかに残すか

〜ついつい杯を重ねる反省の日々〜

着任して七ヶ月

ばかりです。

この地の常識

日高山脈の南西側の国有林約十四万鈔を管轄する日高南部森林管理署に着任して早七カ月。太平洋側は温暖で暖かいとの一般的な先入観を持っていた私にとつて、クールビズもクーラーも海水浴も全く無縁だったのは少々驚きでした。

馬：馬：馬：馬！

当署の管轄区域は、日高町、新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町の六町にまたがり、管内を走る国道二三五号は「優駿浪漫街道」の愛称で呼ばれており、車窓に広がるのは軽種馬牧場：馬：馬：馬：

この地の常識

彼らの晴れ舞台「競馬」は一部の方達の楽しみとばかり思っていました。日高管内では地域産業であり、住民生活にも深く密着、当然行政との係わりも大きく、地域の人たちとコミュニケーションを図る上でも、多種多様な「この地の常識」は必要です。

今年六月、浦河町役場には「祝・ディープスカイ日本ダービー優勝」、また、新ひだか町役場には「祝・ウオッカ安田記念優勝」という大きな垂れ幕が掲げられました。道外からのお客さんに紹

介するほど驚いたのは私くらいで、地元では全く常識的な事。

また、ウオッカという馬が昨年のダービー馬で、生産された牧場が署のすぐ近くにあることも。

十月には道営競馬が門別競馬場で開催され、貸切バスの運行があり、盛況だったとのこと。地域の主要産業である軽種馬産業の活性化は重要な問題です。

国有林と牧場

一方、国有林野事業には隣接地が牧場というのは地域管理経営計画を立てる上で大変重要な事項です。



日高町植樹祭は、門別競馬場の隣接地で開催され、私もクワを持ち苗木を植え付けました。

これは、造材作業の実施時期が、馬の妊娠、出産などによって制約を受けるため、立木販売個所の立地条件が価格に大きく影響することになります。

第四次地域管理経営計画の樹立に向けて一日も早く常識を身につけねばと焦る気持ちとは裏腹に、アツという間に季節が替わってしまふスピードについていけないことに苛立ち、ついつい杯を重ねる毎日が反省の日々です。

日高南部森林管理署
署長 **花木健英**

森林環境保全 ふれあい センター

通 信



森林環境保全ふれあいセンターは、国有林をフィールドとした自然再生や生物多様性の保全、森林環境教育などの活動を支援しています。

当日は五十名の参加者のみなさんを当センターの職員が案内し、フキの種類、シラ

した。
(浅田 自然再生指導官)

自然界の厳しさを学ぼう！

2008 森林ウォーク in オホーツクの森
常呂川森林環境保全ふれあいセンター

参加者のみなさんは、森林の色々なことに興味を持っており、中には北海道に引越してきたばかりの方もいるなど、熱心な質問がたくさん飛び交い、有意義な散策会になりました。

見市のオホーツクの森で、「森林ウォーク in オホーツクの森」が開催されました。これは、潤いと安らぎをもたらす「みどり」を次世代に引き継ぐための活動を促進していくことを目的とするオホーツクみどりネットワークが主催したもので、当センターも構成員になっています。

カンバの樹液の用途、食物連鎖の話、山で道に迷ったときに南の方向が分かる方法等いろいろな角度から森林の大切さや自然界でのそれぞれの役割を、時には笑いを交え解説しました。



会場には釘を打ち付けるトンカチの音が響き渡り、子どもたちは当センター職員からのアドバイスを受け

い一日になりました。
(窪田 自然再生指導官)

トンカチ森林教室

函館市立金堀小5年生

駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター

九月二十五日(木)、函館市立金堀小学校の五年生四十二名のみなさんとトンカチ森林教室を函館市亀田中野町の北海道立道南四季の杜公園で開催し「巣箱作り体験」を行いました。

子どもたちは「とても楽しかった!」、「巣箱の設置がとても楽しみ!」などと元気に話し、木のぬくもり・温かさに触れ、また木材を身近に感じてもらうことができた楽し

ながら、時間を忘れるくらい作品づくりに没頭し、完成した時の満足そうな表情がとても印象的でした。

午後からは公園内の自然散策も行いました。

天然記念物の指定を受けている札幌市の藻岩山原始林は、平成十六年秋の台風により、その面積の約一割近い二十三杉にわたって風



平成16年の台風被害当時の様子

倒被害を受けました。

直後に倒木を調査した高

橋北海道大学教授

(当時)によれば、

オヒヨウ、シナノ

キ、ハリギリなど

原始林を構成

する主要広葉

樹が軒並み倒

れ、しかも多

くは直径四十

センチ以上の大木

であったとさ

れています。

現地を管轄

する石狩森林

管理署では、

被害地の扱い

について検討の結果、

原始林の回復には人為

を加えず、自然力に期

待するとの結論に至

り、その旨の現地看板

を平成十七年度に設置

しています。

このような中、当セ

ンターでは風倒前から

侵略的外来種とも言わ

れるニセアカシアの原

始林への侵入を危惧し

てきたこともあり、ニセアカシア侵入の早期発見と原始林の回復状況把握を目的として植生調査を行うこととしました。

調査は二畝×三十畝の小プロット内の天然更新木をカウントするだけの簡易なものです。去る十月十六日に行った二回目の調査でもニセアカシアの新たな侵入は確認されず、高木性樹種の更新もおよそ良好と考えられる結果が得られたと

ころです。

また、長年クマガラの観察を続けている地元の方から営巣状況等を提供いただき

ており、職員によるこの

植生調査とともに、アンテナ

ナ高く多様な情報も収集し

ながら原始林の変化を観察

していききたいと考えていま

す。

（荻原 所長）

藻岩山原始林のモニタリング

台風被害後の原始林の変化を追う

石狩地域森林環境保全ふれあいセンター



十月十一日（土）、秋晴れの下、標茶町雷別地区の国有林で雷別自然再生学習会を実施し、参加者十六名のみなさんと次の作業を行いました。

ことを覚えてもらってから、シラカンバとミズナラの種子を採取しました。

植樹作業
九月に雷別ドングリ倶楽部会員が地拵えした場所にミズナラなどの広葉樹九十六本の植栽とミズナラ種子五十個の直播きをしました。

タネ播き
自然の中で広葉樹芽生えの説明後に、ヤチダモ、キハダなどのタネを発泡スチロールの苗床に播きました。

秋晴れの自然再生学習会

植樹と種播きに汗を流す

釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

樹名板設置

森林散策をしながら樹木の名前の由来などを説明して、参加者全員で

樹名板設置を行いました。

（白藤 自然再生指導官）

タネ採取
樹木に応じてタネの落ち方・広がり方に特徴がある



↑ポット苗作りと枝打ち作業

10/1 野幌森林公園内の「遊々の森」で、江別市立野幌小学校の愛林少年団が秋の活動として、低学年はハルニレのポット苗木作り、高学年のお兄さんお姉さんは枝打ちと除伐の作業体験を行いました。

みんなで植えた木



道内各地の国有林では
市民参加による
笑顔あふれる秋の森林づくり活動が
行われました



→ **B☆Bの森スタート**
10/3 千歳市国有林で、国有林と森林整備協定を締結している北海道日本ハムファイターズが、マスケットのB☆B、藤井社長、球団職員四十名によるトドマツの植樹を行いました。



石狩森林管理署

←植樹体験学習

10/6 千歳国有林で、千歳市立緑小学校6年生が、アオダモ・カツラなどの広葉樹4種類の植樹を行いました。



← **コンサ百年の森スタート**
10/12 千歳市国有林で、国有林と森林整備協定を締結しているコンサドーレ札幌が、マスケットのドーレ君、サポーター、球団職員八十名によるトドマツの植樹を行いました。

→幌南の森で植樹活動

10/15 藻岩山の遊々の森「幌南の森」で、札幌市立幌南小学校の五年生が、カミネッコを使った植樹活動を行いました。



→ **十周年記念植樹**
10/12 札幌市舞鶴国有林の平成16年台風被害個所で北の森21運動の会が、ヤチダモ千本の植樹を行いました。



←STV50年記念植樹

9/28 千歳国有林で、国有林と森林整備協定を締結しているSTV札幌テレビ放送が、アナウンサーや視聴者300人による記念植樹を行いました。

→ダイナックス社会貢献植樹

10/18 千歳国有林の「喜びの森」で、社会貢献活動の一環として国有林と森林整備協定を締結している千歳市の㈱ダイナックスが、社員ら90名による植樹を行いました。



↑清流と魚を守る森づくりを協定

10/10 厚田川上流部の国有林で、国有林と「清流を守り豊かな海を育むための森林づくり活動」の協定を締結した石狩湾漁業協同組合が、10/16 河畔林造成を目指し広葉樹400本の植樹を行いました。

渡島森林管理署



↑台風被害地再生の森づくり

10/4七飯町のカリマ国有林で、国有林と森林整備協定を締結している函館元町ライオンズクラブと函館市内のくるみ学園の児童らによる植樹活動が行われ、500本のミズナラの植樹を行いました。



9/30占冠村トナム国有林で、上川南部署と胆振東部署の共催による、両署の地域をつなぐ鶴川の上流域の森林ボランティア団体と下流域の鶴川漁業協同組合女性部、流域町村の住民らがアカエゾマツ五百本の植樹を行いました。



上川南部森林管理署 胆振東部森林管理署

留萌北部森林管理署



↑北のしじみの森づくり

9/25天塩町の川口国有防風保安林で、天塩町立天塩小学校の子どもたちが育てたミズナラの苗木を植樹し、防風柵の設置も行いました。

網走西部森林管理署



空知森林管理署

↑美しい森づくり育樹活動

10/21芦別国有林・昭和61年植栽のトドマツ人工林で、地域のみなさんが参加し、トドマツがさらに大きく育つ日を楽しみに枝打ち作業を行いました。



↑森林認証取得林で育樹会

10/23昨年SGEC認証森林となった遠軽町丸瀬布国有林で、町内外の林業関係者による本数調整伐と枝打ち作業を行いました。

10/28浦河町森林公園として町民に親しまれている井寒台の森で、浦河町との共催による平成18年の風倒被害地の復旧植樹を行いました。また、防風・幹ネットの設置も行いました。



日高南部森林管理署



↑巨木・七尺ニレ再生植樹

10/8奥名寄国有林において下川町との共催で、平成18年に風倒被害を受けた巨木・七尺ニレの再生を願い、このニレのクローン苗木3本とハルニレ苗木200本の植樹を行いました。



上川北部森林管理署



↑ホームマックがえりも植樹活動

9/9えりも海岸国有林で、ホームマック(株)の地域貢献活動として、同社社員と家族と、北ぐにの森づくりサークルによる植樹活動が行われ、広葉樹300本が植栽されました。

秋の森で楽しい森林教室



紅葉と実りの秋を迎えた
みなさんの街の国有林には、
楽しさあふれる光景が
広がっていました。



山狩りを楽しもう！
網走西部森林管理署

10月11日、遠軽町の^{ばろう}芭露国有林で小学生を対象とした同町教育委員会主催の学社融合事業「山狩りを楽しもう」が開催され、網走西部森林管理署とまちの森林博士がサポートを行いました。

山の中に入った子どもたちは、ブドウやコクワがなっているのを見て大はしゃぎ！。ツルを引いたり、落としてもらったりしながら夢中で実を採り、「甘い！」「美味しい！」を連発していました。山狩りの後は、森からの贈り物での遊びとして、笹舟・イタドリの笛・ヤジロベエ・弓矢等を作り、笛を吹いたり、弓を射ったりしました。子どもたちはとても楽しかったようで、帰り際には「もっと遊びたかった！！」と話していました。

10月6日、幌加内町立^{しゅまりない}朱鞠内小学校の遊々の森「わんぱくの森」で、子どもたちとネイチャーゲーム「森の色あわせ」で楽しく遊びました。

これは18色の色見本カードを持ち、森の中で同じ色の物を見つけてくるもので、子どもたちはカードと森の中の物をにらめっこをしながら、色がぴったりと合う赤いキノコ、葉っぱなどを発見するたびに歓声を上げていました。

見つけた物の発表会では、色々なものが出てくる中、「(国有林の) 赤い境界標！」これには、職員も大笑いでした。

その後は「木の生長の仕方について」勉強した後、来春のお楽しみに「ドングリのポット植え」をして秋の楽しい一日を終えました。



わんぱくの森で楽しいゲーム
北空知支署



治山ダムを見に行ったよ！
後志森林管理署

10月25日、後志森林管理署が昭和47年から治山工事を進め、来年度に北海道庁へ移譲する羊蹄山・尻別川地区の民有林直轄治山事業の施行地見学に、京極町立京極小学校の子どもたちが訪れました。

子どもたちは、普段見る機会のない大きな治山ダムや土石流で運ばれた巨石に驚いた様子でしたが、この治山事業によって下流の安全な暮らしが守られていることや、崩れた山にみどりや蘇ってきていることもわかりやすく説明しました。

天候にも恵まれたことから、山腹からは京極町の市街地も眺望することができました。

その後、公民館に移動し、ササ茶づくり体験も行い、元気いっぱい子どもたちと楽しいひとときを過ごしました。



森のことをいっぱい知ろう!
渡島森林管理署

10月18日、長万部町福祉センターにおいて、身近な自然とふれあい、自然のすばらしさ・大切さを体験を通じて発見・探求する心を育てる「わくわく体験塾」が同町教育委員会の主催で開催され、渡島森林管理署ではそのサポートを行いました。

当日は小学生9名の参加があり、木の実の見分け方などのレクチャー（写真）を行った後、長万部公園に移動して、遊歩道を散策しながら木の実やキノコを観察・採取して母樹当て・森の色探しなど五感を使ったゲームを楽しみました。また、遊歩道沿いの樹木に樹名板を設置するなどの公園の整備にも取り組み、森林の中で生き生きとした子どもたちの姿が印象的な1日となりました。

日高南部森林管理署では、えりも地区の中・高生と中高一貫環境学習に取り組んでいます。

9月11日、北海道えりも高等学校1年生のみなさんを対象に、「えりも岬緑化事業」に携わった元職員の飯田鉄造さん（76）を講師に迎え、「百人浜に学ぶ」と題し、実体験を通じた緑化事業の苦労や当時の生活などについて講演していただきました。

また、18日には、ひだか南森林組合などの協力による「フィールド学習」をえりも海岸林のクロマツ人工林で枝払い作業を汗びっしょりになって行いました。さらに、生徒たちが中学生の時に植樹した木々の生育状況の観察も行いました。



えりも中高一貫環境学習
日高南部森林管理署



**新川西中・宮の森中
森林管理局で総合学習**
指導普及課

森林の地球温暖化防止効果などに注目が集まる中、森林のことを詳しく学ぶために札幌市内の中学生が沢山の質問を抱えて北海道森林管理局を訪れました。

10月10日、札幌市立新川西中学校1年生11名（写真上）が来局し、「今、私達にできることは何か～森林伐採を防ぐために」、「森林の減少」についてテーマを設定し、森林の減少によってどんな問題が起こっているのか、木を伐って無くならないのか、などの質問が寄せられました。

また、24日には同宮の森中学校2年生6名（写真下）が「森林伐採による諸問題」をテーマとして、どこで森林伐採が行われているのか、札幌市内の森林はどれくらい減少しているのか、などの質問が寄せられました。

両校の生徒に共通にあったのは、森林伐採＝悪いこと、森林は減少している、という考え方でした。

そこで、森林には、伐らなくてはいけないものもあることや、伐った木材を利用することによって、日本や北海道の森林が元気になること、日本や北海道の森林は減少していないことなどを説明しました。

生徒たちは予想していなかった展開に、さらに掘り下げた学習テーマを見いだしつつあるようで、今回学んだことを学校に帰ってから、他の生徒達にも伝えることを約束し、元気よく戻って行きました。



各地からの便り



林道でマラソン大会

後志森林管理署

9月28日、登別市鉾山町の国有林林道をコースに、第2回コーザングリーンレースが開催されました。

約100名の参加者が20km、10km、5km、3kmの4コースに分かれて、秋晴れの下、健脚を競い合い、心地よい汗を流しました。

10月5日、第91回森林レクリエーションin知床～森林散策をしながら知床を撮ろう～を開催しました。



秋の知床を撮ろう！

知床森林センター

これはデジタルカメラを持って羅臼湖畔の森林を散策し、ファインダーを通した秋の知床の自然とのふれあいを楽しみながら、森林への興味・関心を持ってもらおうというもので、19名の参加者が集まりました。

当日は好天の下、地元写真家のアドバイスを受けながら知床の紅葉の大パノラマを鑑賞・撮影しながら、ゆっくり散策を楽しみました。



森林ウォークin鹿の子沢

網走中部森林管理署

10月19日、置戸町鹿の子沢風景林において「森林ウォーク in 鹿の子沢」が同町観光協会主催、当署後援で開催されました。参加者のみなさんは、森の巨人たち100選に選ばれた「三本桂」や「忍び岩」等の奇岩、「虹の滝」などを森林インストラクターのガイドで鑑賞しました。

また、北見交響吹奏楽団による森のコンサートも行われました。



営林友の会が枝打ち作業

日高南部森林管理署

つる切り作業を行いました。

程よい汗をかきながら1時間で作業は完了。その後、林内でキノコを探しましたが、残念ながら今年是不作のようでした。

その代わりブドウ・コクワ・マタタビなど少ないながらも収穫はあり、お土産になったようでした。

昼食は、農屋にある山小屋へ移動し、薪ストーブで暖を取りながら、美味しいきのこ汁を堪能しました。

新ひだか町の森林ボランティア団体「営林友の会」の秋の恒例行事「山を観る会」が10月10日に開催され、38名の参加者が昭和55年植栽のトドマツ人工林で枝打ちや



みんなでキノコの勉強会

● 網走西部森林管理署

9月18日（木）、遠軽町安国の国有林で、地域のみなさんを対象にした秋の恒例イベント「キノコ採取と森林見学会」を生田原の町おこしの会との共催で開催しました。キノコ狩りには暑いくらいの天気で、ここ10日ほど雨が降らず乾燥していたため、あまりキノコは採れませんでした。それでも、参加者が採取したキノコの名前や食用か否かなどを専門家に鑑定してもらい、みなさんは熱心に解説を聞き入っていました。

昼食時には、生田原町おこしの会の皆さんが現地で仕込んだ「特製キノコ汁」を堪能し、盛況の内に終了しました。



民有林と国有林の意見交換

● 空知森林管理署

9月9日、当署会議室において「石狩空知森林行政連絡会議」を開催しました。

この会議は、民有林を担当する道の林務行政機関と国有林が森林に関連する情報交換を図り連携を深めることを目的として設置され、平成12年から毎年行っており、各機関の平成20年度の事業概要等の情報交換を行いました。この会議を通じて、民有林と国有林がお互いの事業等を理解し、さらに連携を深めることができました。

乙部町富岡地区の国有林には、「縁結びの神が宿る」と伝えられている「縁桂」があり、地域の方々から永年大切にされています。

9月23日（祝）、青空の下、「縁桂森林（もりもり）フェスティバル」が開催され、地元住民やツアー客など、

150名が「縁桂」までの遊歩道を散策し、漂う幽玄さを感じていました。

今年は「縁桂」の前で、詩人の麻生直子さんらによる詩の朗読会も開かれ、フェスティバルに華を添えていました。



縁桂森林(もりもり)フェス

● 檜山森林管理署

10月7日、根釧西部森林管理署管内の景勝地や四季折々の見所を紹介し、参加者に写真撮影などを楽しんでもらう「国有林の四季体験ツアー」を開催しました。

2回目となる今回は17名の地域のみなさんの参加があり、阿寒湖畔周辺の滝見橋や滝口、パンケトーなどを案内し、秋の絶景・紅葉の大パノラマの数々をカメラに収めていただきました。

次回は冬期に開催し、みなさんの作品の中から選りすぐりを提供していただき、来年の当署PR用カレンダー作成などに使っていただく予定です。

参加者のみなさんからは「森の中を歩いて、紅葉した景観もすばらしく、心地よい運動になりました!」「冬はいつ頃行う予定ですか?次回もぜひ参加したい!」などの声が聞かれました。



国有林の四季を撮影しよう!

● 根釧西部森林管理署



アルファリゾート・トマムスキー場

上川南部森林管理署

レク森紹介

スキーへ行こう!



国有林には、その自然環境を活かした、すばらしいスキー場が広がっています。このコーナーではその魅力の数々を紹介していきます。

→ 上級者限定開放エリア
冬山×スキー場×ライダーで作る
新しい冬山遊びが楽しめます



全16コース、最長滑走距離4,500m、広大なスケールを誇る「アルファリゾート・トマム」は占冠村にあるスキー場を中心とするリゾートです。

エリアはアルファキャビンがあるトマム山側とザ・タワーのある山側と大きく2つに分かれ、トマム山側はカンバ類の木が多い斜面、ザ・タワー側は針葉樹の多い斜面でそれぞれ雰囲気の違いを楽しむことができます。

また、冒険心をくすぐるストーリー性を持たせた子ども達のためのゲレンデ「アドベンチャーマウンテン」はファミリーにとっても人気があり、チャレンジアイテムをクリアしながら楽しくスキーが上達する魅力いっぱいの巨大アミューズメントパークです。

今冬は上級者の方からファミリーまで多くの方に楽しんでいただける「アルファリゾート・トマム」で思い出に残るリゾートスキーを楽しんでみてはいかがでしょうか？

(写真提供：アルファリゾート・トマム)



← アドベンチャーマウンテン
世界初の「ストーリーマウンテン
リーゲレンデ」で滑るだけで
いつの間にかスキーが上達



DATA

- 所在地 勇払郡占冠村字中トマム
- アクセス 車 札幌から164*。(約2時間30分)
旭川から125*。(約2時間10分)
帯広から 86*。(約1時間)
- JR 札幌から最短82分
帯広から最短49分
- 開設期間 12月1日～3月31日(予定)
- 問い合わせ アルファリゾート・トマム
0167-58-1111(代)

広報「北の森林 国有林」11月号 No.102

発行 北海道森林管理局

編集 保全調整課

〒064-8537 札幌市中央区宮の森
3条7丁目70

I P 電話 050-3160-6274

電 話 011-622-5231

F A X 011-622-5235

<http://www.hokkaido.kokuyurin.go.jp/kyoku/>

▽十二月二日(火)
低コスト作業システム構
築事業現地検討会
根釧西部森林管理署管内
検討会
▽十一月二十一日(金)
緑の回廊猛禽類調査現地
札幌市定山溪

EVENT
INFORMATION

行事・
イベント情報